

麦づくり情報(No.2)



1. 麦作況情報田の生育概況(2月12日現在)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況 ()内は昨年比もしくは平年比
牛津	サチホゴールドン 4条播き	本年値	12/14	93	11.0	283	4.5	草丈は平年より高い。(110%) 茎数は平年より少ない。(82%) 葉令からみた生育は平年よりやや早い。
		平年値	12/5	115	10.0	346	4.2	
大和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/27	156	16.0	708	5.6	草丈は平年より高い。(136%) 茎数は平年より多い。(159%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		平年値	11/29	145	11.8	445	4.8	

葉齢は、11月中下旬播種で現在5~6葉期、12月上中旬播種で現在4~5葉期、播種期以降平均気温が高く推移したことで生育が進んでいる。シロガネコムギでは幼穂形成期(幼穂1mm)を過ぎ、まもなく節間伸長期(節間長5mm)となる。湿害の影響から、下葉が褐変・黄化している圃場が一部みられる。

2. 今後の管理

○穂肥施用について

小麦は、適期に播種した圃場が多く、また順調に生育が進んでいるため、穂肥の施用にあたっては基準の2月下旬~3月上旬より遅れないように施用する。

大麦は、穂肥の施用時期が3月上旬となっているが、播種時期のバラつきがあるため、生育に合わせて施用する。

○麦踏み・土入れ

① 麦踏み 必ず土壌が乾燥した状態で!

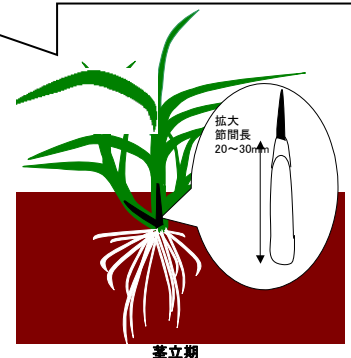
12月下旬以降に播種した圃場は麦踏み可能な圃場が多いが、11月中の播種で茎立期(右図の時期)を迎えた圃場は実施しない。

(麦踏みの晩限は草丈20~25cm程度)

② 土入れ 肥効を高めるため穂肥後に実施する!

雑草防除や排水対策にもなるため、本葉5~6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。なお、一度で多く土入れをすると分けつを抑制するため、特に生育量が少ない圃場については、留意して実施する。

茎立期(節間長が2~3cmとなる)
この時期になると、麦踏みは実施できない



○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。なお、麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ 加ノグサ	5~10g /10a	100L /10a	麦1葉期~節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (加ノグサ1~3葉期まで)	1回以内	加ノグサには10g/10a土壌処理剤との体系処理で使用
エコパートフロアブル	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50~100ml /10a	100L /10a	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	薬害が出やすいヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml /10a	70~100L /10a	生育期(雑草3~4葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	佐賀県施肥防除てびきには未掲載

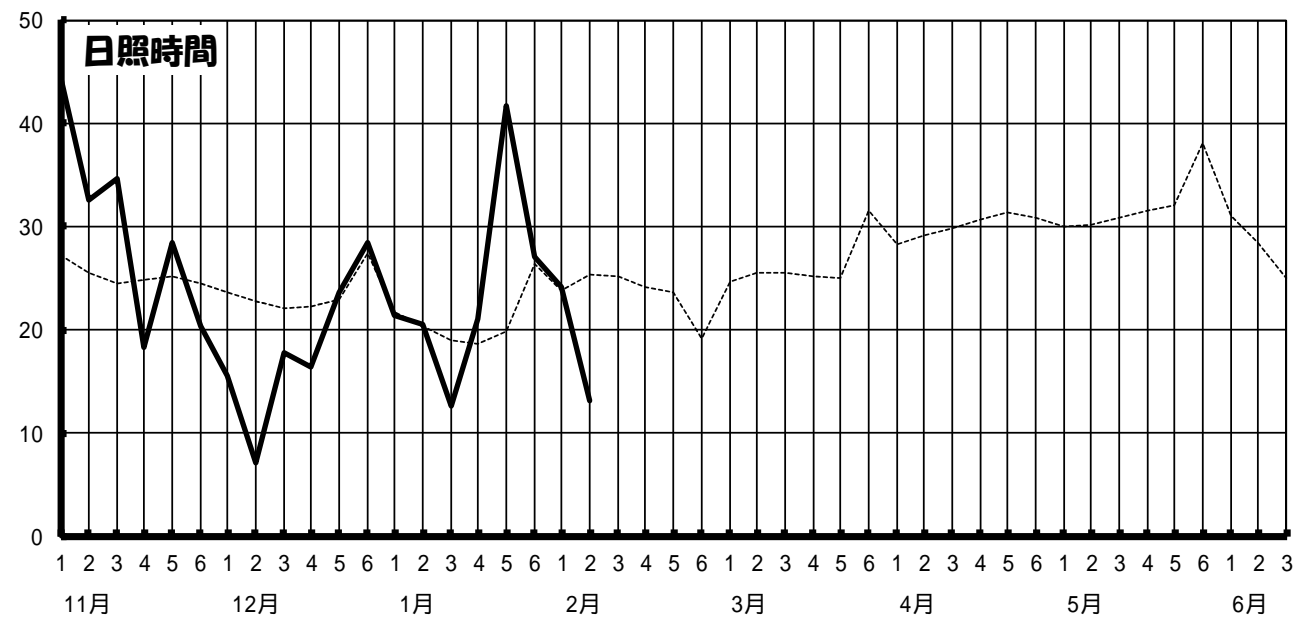
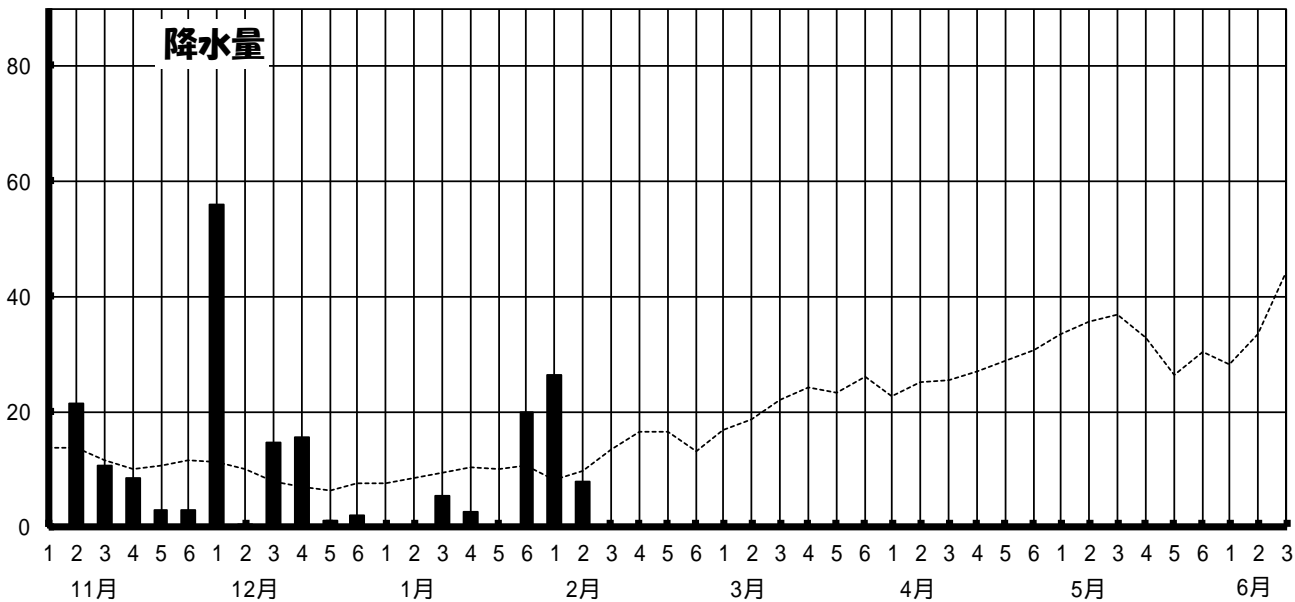
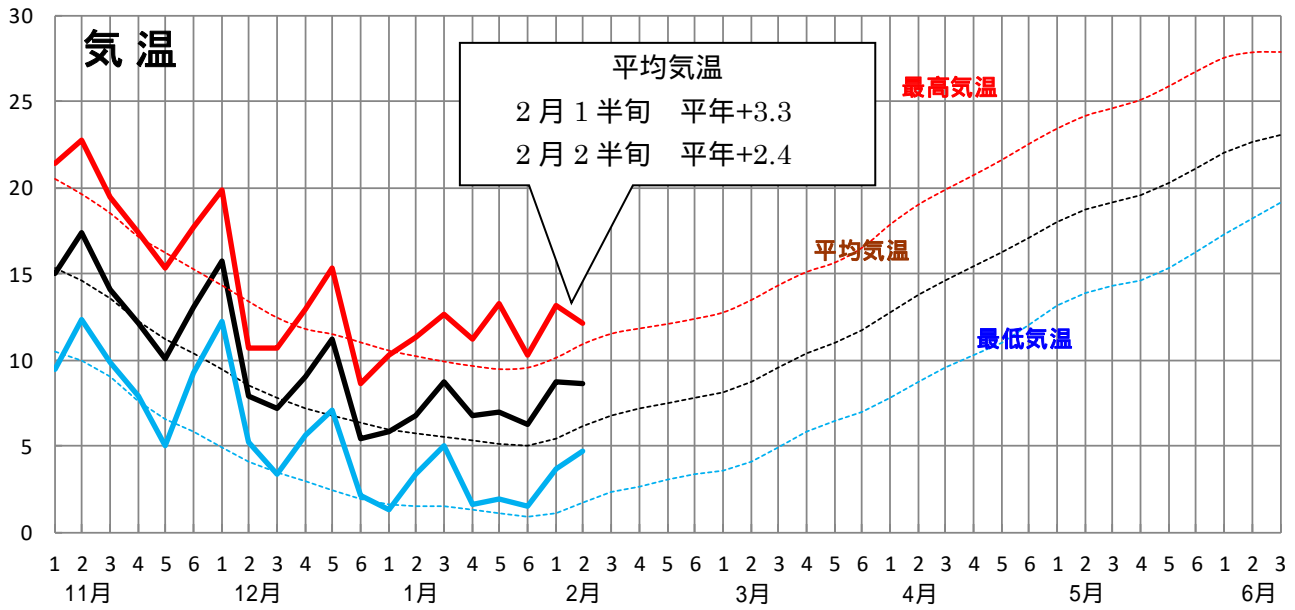
○排水対策

2月末~3月上旬の降雨が多くなる時期に備え、現在排水が良好な圃場においても排水対策を講じる。

31年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値